

パシフィコ横浜 緊急対応ガイド



2017年4月改訂

～ 目 次 ～

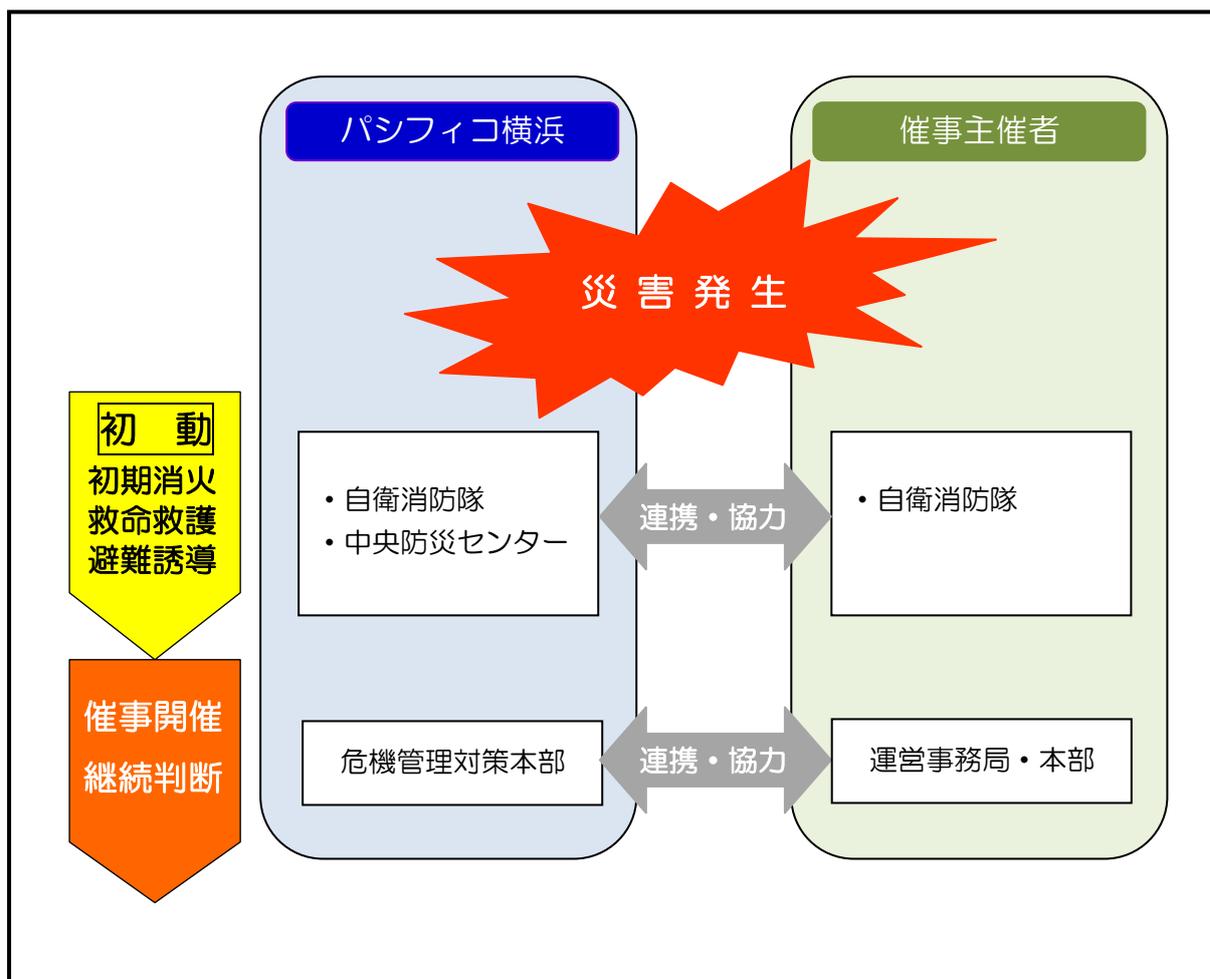
目次	．．．．．	1 ページ
はじめに	．．．．．	2 ページ
1. パシフィコ横浜の概況		
(1) 横浜市防災計画とパシフィコ横浜の位置づけ	．．．．．	3 ページ
(2) 想定地震と被害想定	．．．．．	4 ページ
(3) パシフィコ横浜の施設について	．．．．．	5 ページ
(4) 避難場所	．．．．．	6 ページ
2. パシフィコ横浜における防火防災体制		
(1) 非常時の連絡体制	．．．．．	7 ページ
(2) 自主防火防災管理	．．．．．	8 ページ
3. 緊急事態発生時における行動基準・安全対策		
(1) 火災	．．．．．	10 ページ
(2) 地震	．．．．．	11 ページ
(3) 救急（病人・負傷者）	．．．．．	12 ページ
(4) 事件・事故	．．．．．	13 ページ
4. 資料		
(1) 避難経路	．．．．．	15 ページ
・ 国立大ホール		
・ 会議センター		
・ 展示ホール・アネックスホール		
(2) 防災設備		
① 屋外消火栓	．．．．．	21 ページ
② 屋内消火栓、常設消火器	．．．．．	21 ページ
(3) 救護設備		
① 救護室	．．．．．	22 ページ
② A E D（自動体外式除細動器）	．．．．．	23 ページ
(4) 災害用備蓄品	．．．．．	24 ページ

<はじめに>

本ガイドは、パシフィコ横浜で催事をご開催いただく主催者の皆様に、弊社施設の特性や防火・防災体制をご理解いただくとともに、火災・地震等の災害や事件・事故が発生した場合に、パシフィコ横浜との連携及び連絡体制や主催者の皆様にご対応いただく事項について、ご説明致しております。

主催者の皆様におかれましては、「パシフィコ横浜防災指針」(別冊)と併せてご参照いただき、万全なる防火・防災体制を構築していただきますようお願い致します。

緊急事案発生時、主催者の皆様と弊社の相互協力は大変重要となりますので、皆様のご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い致します。



1. パシフィコ横浜の概況

(1) 「横浜市防災計画」におけるパシフィコ横浜の位置づけ

① パシフィコ横浜の位置付け

「横浜市防災計画」により、パシフィコ横浜の施設は、次のとおり指定されています。

- ・ 国立大ホール： 帰宅困難者一時滞在施設
- ・ 展示ホール： 予備的物流拠点※1、補足的避難場所※2
- ・ アネックスホール： 補足的避難場所
- ・ 全施設： 津波避難施設

また、大規模災害時の警察署代替施設として、神奈川県警戸部警察署とも協定を締結しております。

大規模災害時には、ご利用者の皆様との協議の上、施設の開放を決定いたします。尚、パシフィコ横浜周辺地域およびみなとみらい地区は、「大規模延焼火災の恐れが低い地域」に指定されており、特に広域避難場所を指定しなくても、個々人の判断による避難行動で生命の安全が確保される地域とされております。

※1「予備的物流拠点」：救援物資の集配拠点となる物流拠点（基幹物流業者倉庫）を補完するもの

※2「補足的避難場所」：多数の避難者で避難場所のスペースが不足した場合に、補足的避難場所として活用するもの

② 横浜市の備蓄品（みなとみらい地区）

2015年6月現在

種類（保管場所）	内容
災害用地下給水タンク	大型災害用地下給水タンク × 4基 ・ 高島中央公園（1,500 m ³ ） ・ カップヌードルミュージアムパーク（1,300 m ³ ） ・ ヨーヨー広場地下（グランモール公園内 / 1,000 m ³ ） ・ 臨港パーク地下（700 m ³ ） （ 常時水道水がタンクの中を流れる仕組みになっており、 災害時には、約50万人分の飲料水を3日分確保できます。 ）
帰宅困難者用備蓄倉庫 （臨港パーク）	8,000名の帰宅困難者の受け入れを想定して、以下の災害用備蓄品を整備しております。 （ 保存ビスケット、水缶詰、カップラーメン、高齢者用オムツ、 紙オムツ（高齢者・幼児）、おしりふき、生理用品、トイレパック、 トイレトペーパー、アルミブランケット、大型トイレtent、 ワンタッチテント、発電機、ランタン、パルーン投光器、等 ）

【参考】「横浜市防災計画」のホームページアドレス

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/keikaku/keikaku.html>

(2) 想定地震と被害想定

「横浜市防災計画 震災対策編（平成 27 年 2 月修正版）」では、想定地震・被害想定・津波想定は、以下のとおり記載されています。

① 想定地震

「横浜市防災計画」では、元禄型関東地震（M8.1）、東京湾北部地震（M7.3）、南海トラフ巨大地震（M9.0）、慶長型地震（M8.5）の 4 地震を、横浜地域に最も被害をあたえる地震として想定しています。

地震名	解説
元禄型関東地震	相模トラフ沿いを震源とするマグニチュード8.1の地震
東京湾北部地震	マグニチュード7.3の首都直下地
南海トラフ巨大地震	東海地震を包括したマグニチュード9クラスの地震
慶長型地震	神奈川県「平成23年度津波浸水想定検討部会」で設定したマグニチュード8.5の地震。津波被害の検討対象地震

② 被害想定（みなとみらい地区）

想定されている上記 4 種類の地震におけるみなとみらい地区の被害想定は、以下のとおりです。

	元禄型地震 (M8.1)	東京湾北部地震 (M7.3)	南海トラフ巨大地震 (M9.0)	慶長型地震 (M8.5)
想定震度	7	6強	5強	—
液状化被害	可能性有	可能性有	可能性有	ほとんど生じない
津波想定	横浜港最大 2.6m	横浜港最大 2.2m	横浜港最大 1.9m	横浜港最大 4.1m
※神奈川県津波浸水想定検討部会	↓ 津波による影響 殆どなし	↓ 津波による影響 殆どなし	↓ 津波による影響 殆どなし	↓ 津波による影響 殆どなし

「横浜市防災計画」では、平成 23 年度に神奈川県が設置した津波浸水想定検討部会で想定した津波の被害を想定しています。

最も津波被害が大きいと想定される地震は「慶長型地震」で、みなとみらい地区の最大津波高は 4.1m とされています。

(3) パシフィコ横浜の施設について

① 建物の耐震性

パシフィコ横浜の建築物は、新耐震設計法（1981年制定）により設計されており、建物躯体は、震度6強に耐えうるのものであります。

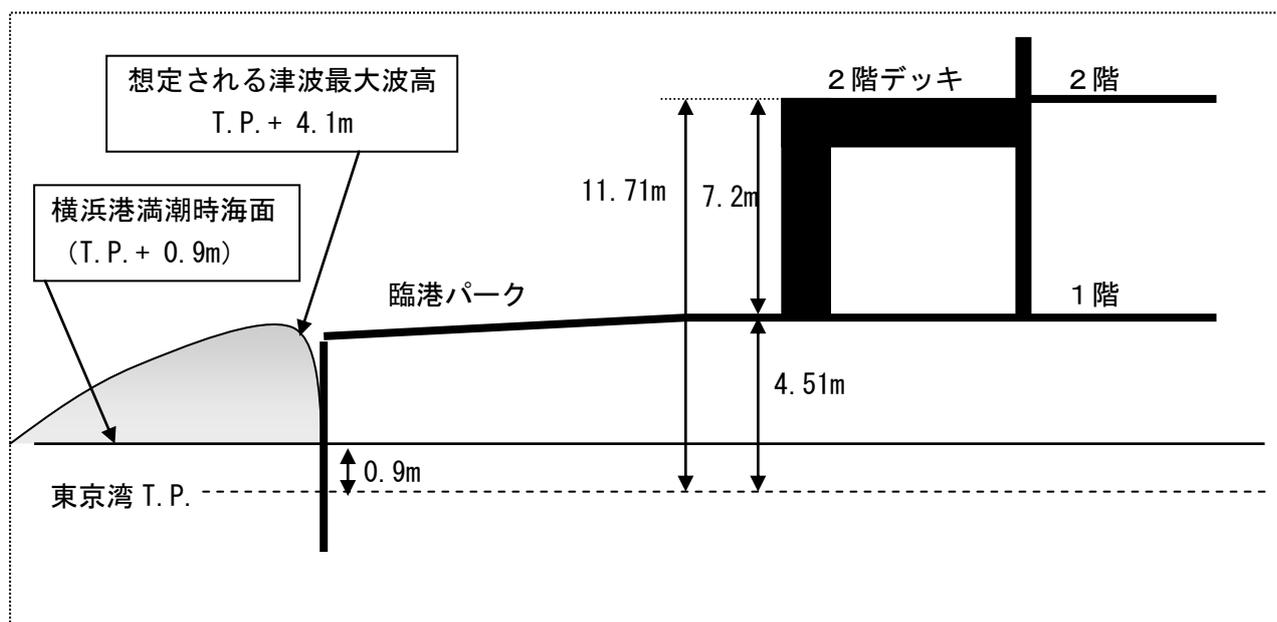
しかし、これはあくまでも建物躯体のみの耐震強度であり、窓ガラスの破損・散逸、天井・壁等、内装の損壊、設備・機材類の落下・転倒・破損等の被害が想定されます。

② 建物の高さ・標高

パシフィコ横浜の建築物は、以下の高さにより設計されています。

津波警報が出た場合には、2階以上を避難場所といたします。

	地表からの高さ	東京湾平均海面（T.P.）を 基準とした標高
1階部分	0m	+4.51m
2階部分	+7.2m	+11.71m



2 パシフィコ横浜における防火・防災体制

パシフィコ横浜では、「パシフィコ横浜防火防災消防計画」に基づき火災予防を実施するとともに、自衛消防隊を編成して非常の場合に備えています。

また、催事主催者の編成による自衛消防隊の積極的な参加・協力を得ることにより、災害の発生防止と催事の安全確保に努めております。

(1) 非常時の連絡体制

火災、救急等の緊急事態が発生した場合は、消防機関へ通報するとともに、中央防災センターに連絡してください。中央防災センターは、展示ホールの地下1階にあり、24時間常駐して全施設の警備・監視にあたっています。

① 連絡方法

電話の種類	電話番号
内 線	9 1 1 9 または 2 1 2 7
非常電話	消火栓設備の上部に設置（受話器を取れば直接繋がります）
外 線	0 4 5 - 2 2 1 - 2 1 2 7

② 連絡内容

連絡事項	連絡内容
場 所	緊急事態の発生場所
内 容	緊急事態の内容・原因・状態等
負 傷 者	負傷者の有無
避 難	避難実施の有無

③ 救急車手配における連絡内容

連絡事項	連絡内容
患 者	病人・負傷者の特徴（年齢・性別・国籍）
原 因 等	発病の状況・けがの原因
状態・容態	病人・負傷者の状態・容態
発生状況	発生場所・発生時間

④ 関係行政機関への連絡

連絡事項	警察	労働基準監督署
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●暴行・傷害・盗難等の事件 ●利用中の負傷・死亡事故・交通事故 ●作業中のけが・事故 	●作業中のけが・事故
連 絡 先	戸部警察署	神奈川労働基準監督署
住 所	横浜市西区戸部本町 50-6	横浜市港北区新横浜 3-24-6 横浜港北地方合同庁舎 3階
電話番号	0 4 5 - 3 2 4 - 0 1 1 0	0 4 5 - 4 7 4 - 1 2 5 1

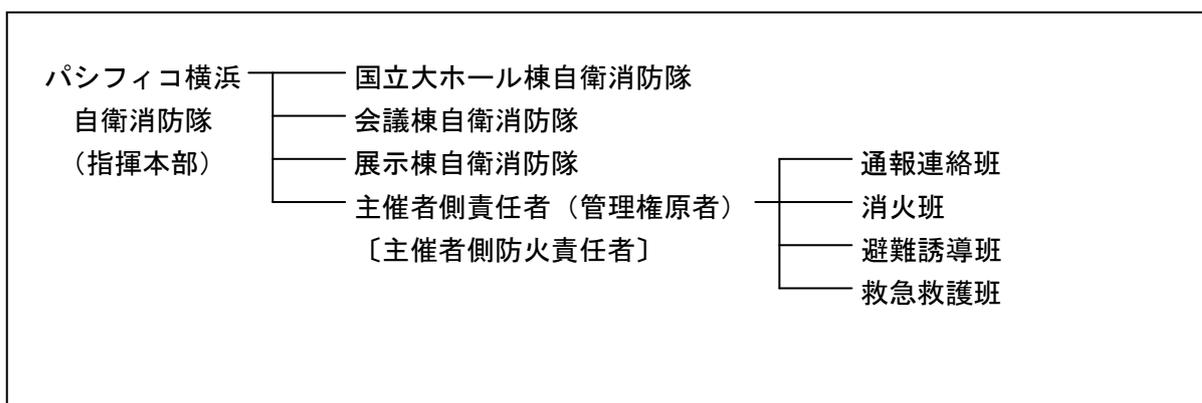
(2) 自主防火防災管理

① 主催者側の管理責任

- ・ ご利用期間中は、「パシフィコ横浜施設利用規則」および「パシフィコ横浜防災指針」に従い、利用者の責任において管理者を定めていただき、パシフィコ横浜との連絡・調整を図りながら、火災や事故の防止を行ってください。
- ・ 火災・地震・救急（病人や負傷者）・事件事故等が発生した場合に備え、「施設利用マニュアル」および本ガイドに基づいた打合せを担当者と綿密に行ってください。
- ・ ご利用期間中に火災・地震等の災害が発生した場合は、パシフィコ横浜自衛消防隊の指示に従い、通報連絡・避難誘導・初期消火を行ってください。

② 主催者側責任者（管理権原者）の責務

- ・ 催事の企画・運営にあたっては、災害の未然防止と来場者の安全確保を最優先に行ってください。
- ・ 防火防災責任者を選任し、主催者側の予防管理組織（火元責任者、誘導責任者等）と自衛消防隊の編成により、積極的に防火防災管理業務を行ってください。



③ 主催者側防火責任者の責務

- ・ 催事関係者に対する「パシフィコ横浜防災指針」および本ガイドの周知徹底と災害防止の指導を行ってください。
- ・ 主催者側自衛消防隊の編成と任務分担の周知徹底、消防用設備の操作方法の指導等を行ってください。
- ・ 災害発生時におけるパシフィコ横浜自衛消防隊への連絡体制を確立してください。
- ・ 非常時の案内放送の文例を作成し、案内放送を行ってください。
※案内放送文例 次ページ参照
- ・ 開場前、開催中および閉場後の会場監視を行ってください。
- ・ 設営、撤去時の会場整理を行ってください。

■ 展示ホール

Exhibition Hall



・ 救護室
・ First-aid Corner



・ 避難経路
・ Evacuation Route



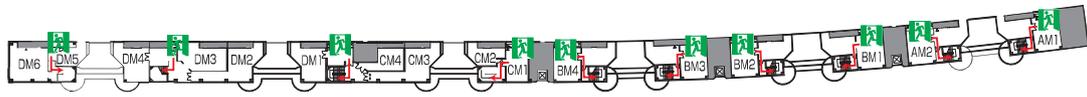
・ 非常口
・ Emergency Exit



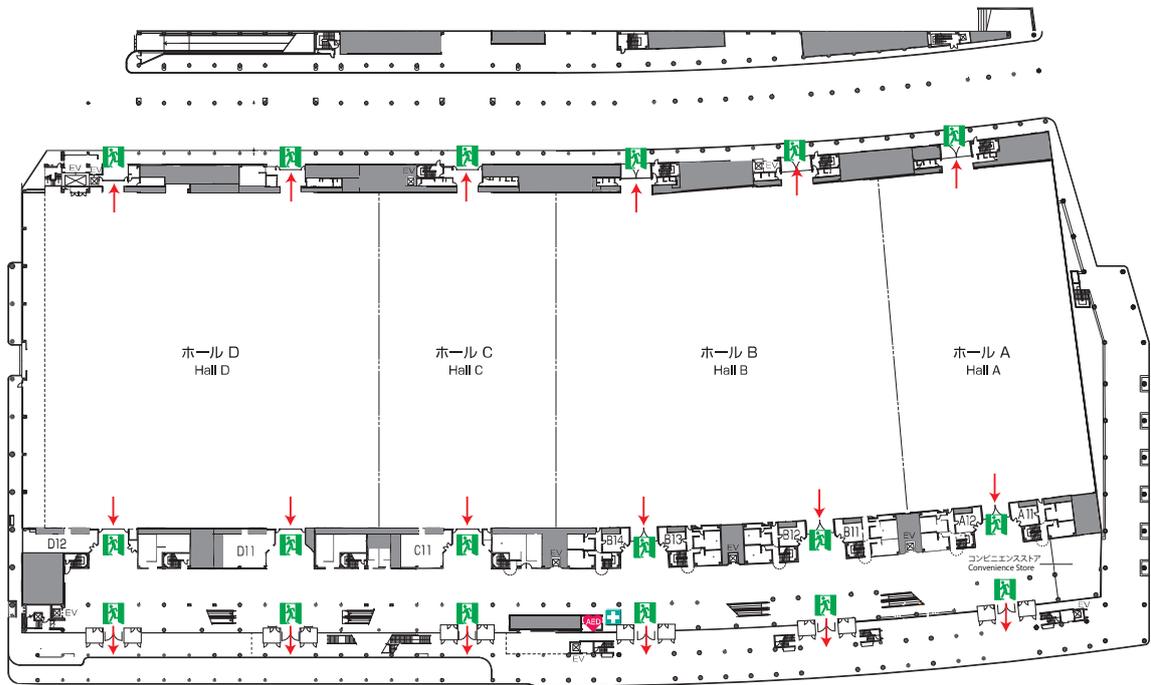
・ AED
・ (自動体外式除細動器)

フロア図 / Floor Plan

M2F



1F

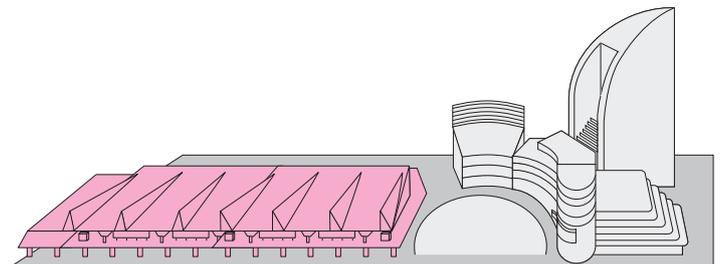
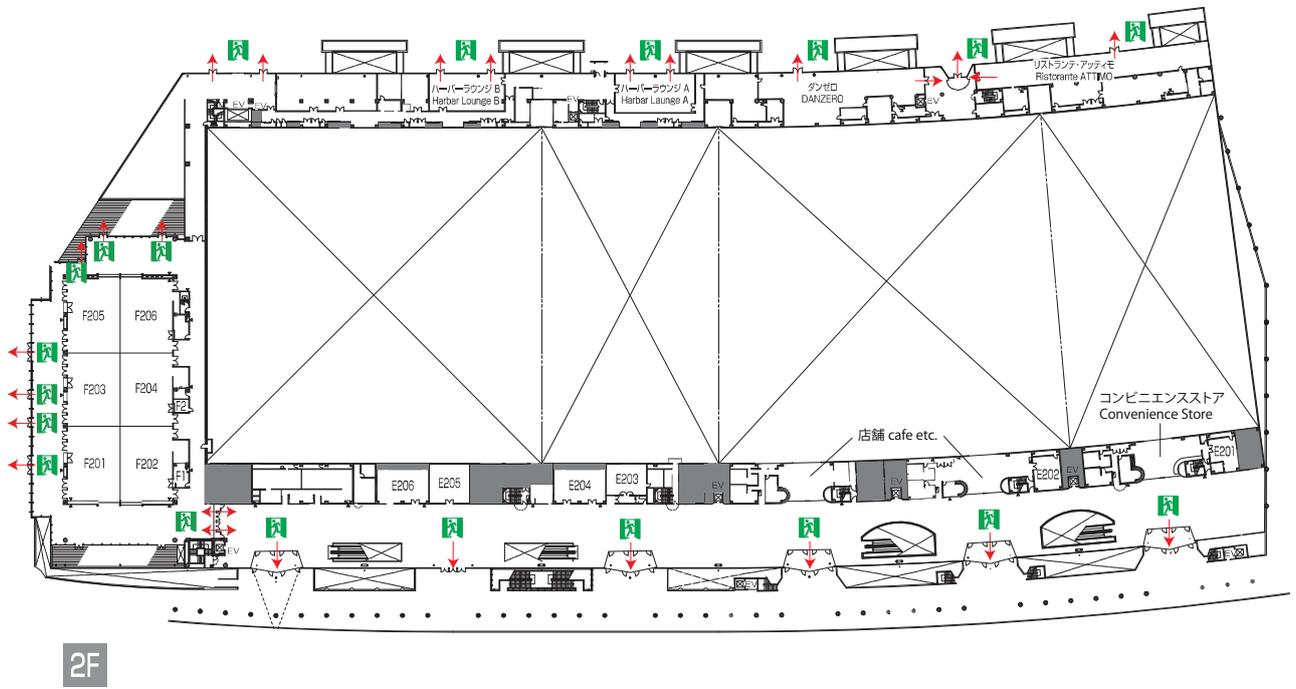


救護室
First-aid Corner

避難経路
Evacuation Route

非常口
Emergency Exit

AED
AED
(自動体外式除細動器)



(3) 救護設備

① 救護室

設置場所	階	設置物
国立大ホール	1階「控室 N101」が救護室を兼ねています。	ベッド2台、車椅子2台、担架1台、救急箱
会議センター	1階	ベッド2台、車椅子3台、担架1台、ソファ1台、 血圧計（TERUMO）1台、電子体温計1本 事務用机・椅子一式 救急箱
展示ホール	1階 コンコース ホール B 前	ベッド2台、車椅子3台、担架1台、ソファ1台、 血圧計（TERUMO）1台、電子体温計1本 事務用机・椅子一式 救急箱

※医師・看護師の常駐はありません。

お客様にて御手配いただき、救護室をご使用することは問題ありません。（他催事との調整要）
また、弊社にて、医師・看護師の手配会社のご紹介を承っておりますので、営業担当にご相談ください。

■救急箱内備品

ガーゼ、医療用補助テープ、包帯、三角巾、綿棒、バンドエイド、はさみ、ピンセット、
体温計、消毒薬



国立大ホール
(控室 N101 内)



会議センター



展示ホール

② AED（自動体外式除細動器）

	設置施設	設置場所
①	国立大ホール	1 F エントランス
②	会議センター	1 F 救護室前
③	展示ホール	1 F 救護室前
④		B 1 F 中央防災センター
⑤	ぷかりさん橋	1 F エントランス付近
⑥	臨港パーク	臨港パーク駐車場 出入り口

15 ページ～20 ページの各施設の「避難経路」参照



♥ 心肺蘇生の流れ



♥ AEDは簡単3ステップ 音声ガイドに従って操作します

1. フタを開けると自動電源ON



2. 電極パッドを胸に貼る



3. ボタンを押して電気ショック



協力：日本光電工業株式会社

(4) 災害用備蓄品

2017年3月現在

品名	数
アルミブランケット	3,000枚
非常食（クッキー等）	3,000個
ライスクッキー（食物アレルギー対応）	96個
簡単トイレ	12,800個
災害支援ベンダー	会議センター：2台 展示ホール：9台

※ 大規模災害時には、ご利用者の皆様との協議の上、備蓄品の提供をいたします。

